

KJ

2015.4

SINCE 1961

今、建築にできることは、なにか。

山崎健太郎デザインワークショップ

YAMAZAKI KENTARO DESIGN WORKSHOP

保育施設「こども園について」

渡辺治建築都市設計事務所

マンションの動向

エヌ・エー・エフアーキテクト

建築家のつくる家 Part.35

御手洗龍建築設計事務所

日本建築家協会各賞／サステナブル住宅賞／BELCA賞



渡辺 治 (わたなべおさむ)

1969年 北海道生まれ。
 1985年 北海道大学修士課程修了
 1986年 ペンシルバニア大学修士課程修了
 1991年 東京大学博士課程 (高橋勝志研究室) 修了
 1992年 渡辺治建築都市設計事務所設立
 1996年 シビル設計コンサルタント設立
 2005年 川崎ファクトリー主催
 2007年 中尊寺顧問建築士

そんなばかなことをしていた私たちに幼稚園や保育園の園長先生は、設計依頼を取り消さないばかりか、署名をしていただいたり、励まされたり、本当に心配していただいた。そして、徐々に仲間が増え、当時の所員は事務所を辞めたが、今でも、事ある度に皆集合し、また仕事し、保育園、幼稚園とも連絡する社会問題に立ち向かっている。

この場をかりて同志にお礼と感謝を表したい。



2015年2月28日 この5年間のプロジェクトに関わった仲間が集まった。約10年間、設備設計を担当してきた三島行雄さんが急逝し、同日「お別れの会」があった

こども園について

保育施設は誰のために——
 こども、親、そして近未来の親としてのスタッフ

保育施設は、こどものためだけのものだと思っていた。
 代々木至誠こども園では、子育て支援室が乳児と来られるカフェとしてつくられた。「乳児がいるとスタッフにも行けない。そういったストレスを取り除くのも、保育園の役目だ」と至誠こども園の稲永勝行先生は言う。そこに行けば、道具や素材が揃っているスタッフの作業室、食事や宿泊も可能な休憩室も整えられた。保育施設は、親のためのものであり、スタッフの就労環境をなし、研修施設でもある。

保育施設には大勢のスタッフが必要であるが、若い女性スタッフが圧倒的に多く、大体は3年くらいで結婚や子育てのために園を辞めるが、就労環境として整っている保育園には多くが戻ってくる。保育園のスタッフは近未来の子育てする親でもあるので、15年くら

同志同士と仕事ができるよろこび

時として、国や自治体は「公共の福祉」を「経済の活性化」に置き換えて政策をつくる。

私たちの事務所の地元で、廃校になったら福祉施設にするはずだった学校跡地に学校や病院、福祉施設などのあらゆる公共施設と、住宅も禁止するという都市計画が市によって描かれた。建てられるのは、商業・業務と一部の風俗だけだった。

こんなことをしていたら、日本は本当にだめになってしまおうと思ひ、私たちは、地元の商店会、自治会とともに、「校舎と緑を未来のこどもに残す」ための運動を始め、何の説明もなしに強行に解体しようとする行政に対して、校門前にも2年間座り込んで抗議をおこなうしかなかった。事務所の所員一同、早朝から夕方まで、休日、雪の日も雨の日も、台風の日も。

い人生を共にする覚悟を持って運営する必要があるし、私たち建築家もそれを前提に施設を設計する必要がある。

本来、少子化が進んでいるとして、これまで無駄になる保育園の増設は各自自治体で抑えてきたはずであるが、出生率を増加させるためと、女性の就業率を上げるために、国は一転して待機児解消を自治体に義務づけた。それに伴い、都心部でも急激に保育園の建設が始まる一方で、こどもたちの遊ぶ声がるるさいとして、建設に反対する住民も現れた。保育園は「福祉施設」の一種で「公共の福祉」に供する施設であるはずだが、静かな住宅地では迷惑施設扱いもされる。

私たちは、保育園の設計にあたり、周辺への影響は最大限考慮し、基準法で必要とされる以上に、セツトバックさせたり、防音性の高いサッシ、見下ろさない工夫などをおこなうようになった。周辺環境にできるだけ配慮する。何か指摘を受ければ、最大限努力して、

対処するようにする。

保育施設の必要性と「家族」

「待機児」が増えた原因は、「雰囲気」ではないかとある行政の方が言った。

つまり、他の人が共働きをしているので、自分もしたくなる、そういうことだ。
 確かにそうかも知れない。しかし、少し前には共働きをしても、待機児が発生しない家族構成だった。戦後、都市に居住者が押し寄せ、核家族化が急速に進んだ社会的背景がなんともしたが原因になっている。

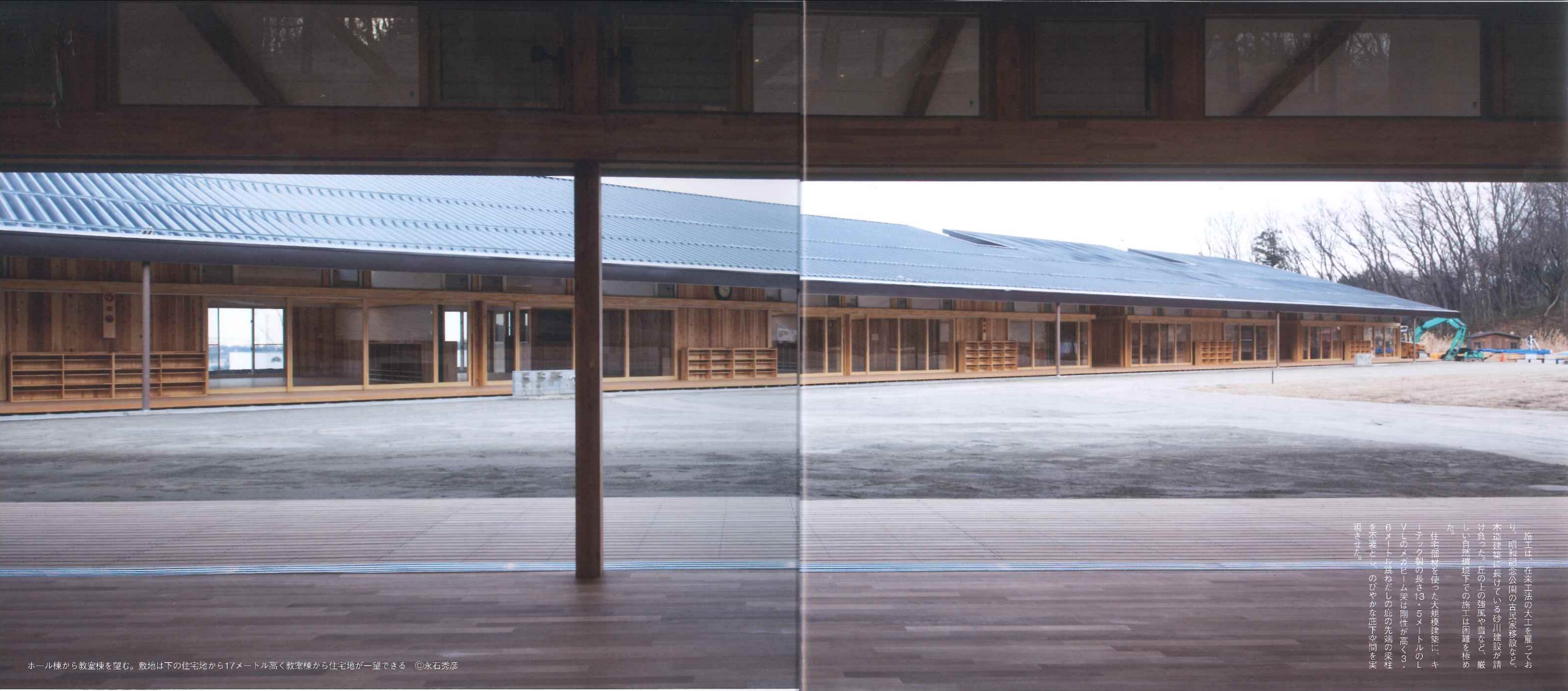
一方で、3・11以降私たちは、現地に行ってみると被害地を見て回った。そこで知ったのは、東北の産業、もしくは日本の食産業の担い手である「家族」の崩壊だった。「家族」という企業は互いに助け合い、励まし合い、通常の株式会社よりもはるかに競争力がある。

東北の「家族」を復興させることが、日本の復興にもつながると感じた。

アメリカでは、世界恐慌時や戦後には家族住宅が大量に供給された。家族はこどものためには一生懸命働く。国民が家族を築けるようにすることで、国は一気に復興に向かったのである。

核家族が増え、共働きをしなければ生きてゆけない社会に対して、福祉施設として保育施設は不可欠であるが、社会の犠牲になるこどもを生じさせるシステムが変わらないかぎり歯止めがない。

地方で出生率を高め、都心に移住した核家族が猛然と働いて納税することによって、社会に貢献すればよい、という考え方もあるかも知れないが、税金で対応できる範囲はすでにはるかに超えている。保育施設政策を考える時に、待機児がいるから増設するというのは根本的な解決にならない。私たちの世代で、子育てをする家族(3世代家族)が住める家やまちをつくることも合わせて保育施設を考えていかないと、不幸な都市集中、核家族化が助長するだけではないかと思うのである。



施工は、在来工法の大工を雇って、昭和記念公園の古民家移設など、木造建築に長けている砂川建設が請け負った。丘の上の強風や雪など、厳しい自然環境での施工は困難を極めた。
住宅部材を使った大規模建築に、キーンと響く長さ13・5メートルのLVLのメガビーム梁は剛性が高く、3・6メートル離れた下の庇の先端の梁柱を不要とし、のびやかな庇下空間を実現させた。

ホール棟から教室棟を望む。敷地は下の住宅地から17メートル高く教室棟から住宅地が一望できる ©永石秀彦

東京ゆりかご幼稚園

里山教育をやりたい

内野彰裕先生は、6年前に、「里山教育」ができる土地を求めてこの地に立つ。それから、事あるごとに、この土地に訪れ、草抜きをしたり、周辺の森の散策をした。広大な土地は、2・5ヘクタールあり、背後の森は30ヘクタールある。
建物は、約100メートルの長さの教室棟と、遊戯室、子育て支援室、延長保育室、厨房などがある棟の2棟がハの字に配置されている。

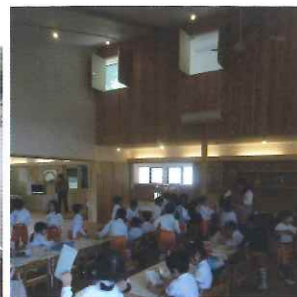
理想的な里山教育のためこの大きな敷地と建物で、160人程度の幼児しか受けていない。
建築コストは、当初から教室棟を建てる分しかなかった。建設費は大震災や職人不足から急騰しており、住宅で流通している部材を組み合わせることで、予算内でもう1棟を建設した。
建築技術が「公共の福祉」に貢献した例と言えよう。



建て方：庇の跳ね出しはメガビーム



園内に入ると緑しか目に入らない



ママさんカフェ：子育て支援、図書室、敷地内には井戸水を利用したビオトープが作られ、春にはオタマジャクシがいる



6年前、敷地内に立つ内野彰裕先生



中央のキャノピーは、消防車を通すために上部に設けられた。その下はくつろぎ替え空間 ©永石秀彦

代々木至誠こども園

子育てをする家族のための「いえ」渋谷区が主宰する指名プロボ1ザルだった。社会福祉法人は100年の歴史があり、本拠地を立川に置く。渋谷区はこどもを信頼して預けられる保育園を全国探して、民営化に踏み切った。私たちのチームが選ばれたとき、「こどもたちに品格を教えられる保育園を選ばせてもらった」と桑原敏武区長が述べた。区民や議会では民営化への反対者が多く、区的全議員が見学に現れた。

入園式に招かれた区長は「民営化して良かっただろう」と誇らしげだった。母体の立川の至誠保育園の福永勝行園長先生は、理想的な保育のために、雨天時も遊べる室内空間、女性の就労、研修環境のためのスタッフの空間の充実、母親のストレスをとるための子育て支援カフェをつくった。

その結果、園舎の面積は最低基準の2倍以上となり、その分の建設コストは自腹になった。

敷地は湾曲しており、各要求事項を成立させるために、壁を湾曲させることで解決された。周辺環境を考慮し、階数を減らし、セツトバックさせ、北側は線状のトップライトから採光された。構造は、セツトバックのための段状の柱梁、反対側は最大限風景を取り入れるために、樹木形の柱とした。



右から福永勝行先生、福永裕子園長、森脇純子主任



(左) 屋根空間を兼ねる階段室。(上) 親のストレスをとるためにつくられた



園内のアプローチ部：左側に子育てかみがみえる ©永石秀彦



樹木の型でとる柱。ロゴマークにもなった



3階に大きな遊戯室がある保育園はめずらしい ©永石秀彦



山手通りから踏地状のアプローチで園庭へ入る。庇とガラスで道路の騒音をブロックする ©永石秀彦

秩父保育園

子育て能舞台

運営者は、日本百観音秩父礼所十三番の慈眼寺の住職で柴原幸保理事長、園長は奥様の柴原真紀さんの二人三脚。2011年に幼児保育連携認定こども園となる。

保育園を運営するようになってから、休める日がなくなり、この設計の当時、真紀さんは、体調の不調で動けなくなることがあった。主人は、「NPO秩父こみにてい」も主宰しており、地域コミュニティによる福祉の支援をおこなっている。

この棟は保育園の増築で、夜祭りの山車が練る歩く街路に面しており、山門の横だったので、秩父神社のように地域活動の核となるよう、街路に面した能舞台をイメージした形態を考えた。



芝原夫婦と設計スタッフの加茂下喜人氏

始めて秩父を訪れて、あたりを散策した際、伝統的な建築物の屋根が街の魅力となっていることに気づかされた。絹織物で隆盛を誇った時代の残骸が随所にあり、独特の文化が残っていた。

また、国指定重要民族文化財に指定されている秩父の夜祭りは、慈眼寺の目の前の団子坂でフィナーレを向かえる。

秩父市には、2007年に作成された景観計画があるが、近代の建物は誰もそれに従っていないように見えた。

近くには、徳川家康から寄進された秩父神社がある。彫刻は左甚五郎作とも言われる銘建築で、地域の中核をなしていた。



秩父夜祭り山車（ダシ）



天井は格天井。右の木壁は能舞台をイメージしている



屋根は伝統的街並みの重要な構成要素である。©永石秀彦



片流れの屋根で幼稚園の園舎を隠しながら、歴史的まちなみに参加させようとした ©永石秀彦



ストリートを通る人たちを観客に見たてた、能舞台で保育がおこなわれる ©永石秀彦





中庭を望む：手前の階段と奥の階段との間に図書館棟があり、最後に解体され、光庭となった



子どもたちによる作品展示会の様子



2階の外部運動場
©永石秀彦



屋外の屋根付きの運動場：住宅地を一望する



トイレを介して教室に採光される
©永石秀彦



草場先生（右）と高橋先生夫人



園を見守る故高橋園長先生

八王子白百合幼稚園 南棟

全館が運動場

この幼稚園との付き合いは、およそ20年に及ぶ。高橋美往前園長先生が創立し、上半身はただか、多摩川まで子ども達と走ることでたびたび、テレビで取り上げられる幼稚園だった。「子どもは元気でたくましく、それが親の切なる望みなんだ」と話していただいた。成績が良くても病弱であったり、社会に馴染めない子どもにもならぬようとする思いである。

娘さんが結婚し、お婿さんの草場秀親さんと共に園に戻ってきたのをきっかけに、園長をお婿さんに任せ、建て替え計画をおこなってきたが、2期工事の半ばで、高橋先生は他界された。

この園舎は放課後には、全館が体操教室で使われる。遊戯室には、公式仕様の鉄棒が据え付けられ、廊下ではガラスに姿を映しながらダンスの練習をおこなう。

当初の建物は平屋で、中庭の位置には、2階建ての図書館棟が建っており、周辺の教室棟への光を遮っていた。そのために、当初は周辺の回廊をガラスの庇に改修していたが、全面建て替えをおこなうことになり、図書館棟の回りの教室から始め、最後に解体され、光庭となった。中庭には可動テントが設置されており、直射光や雨を遮ってくれる。





いわむらかずおさんの童話「14ひきのねずみ」をモチーフにした長さ2.5メートルの壁画。木の根本に親たち、四季折々に10ひきの子ネズミたちが遊ぶ様子が描かれている ©永石秀彦



2人の娘さんの夢の結晶のような園舎になった ©永石秀彦



(右上) 模型で検討するいわむらさん、那須のいわむらかずお絵本の丘美術館で



大泉小鳩幼稚園

いわむらさんの絵と子育て
加藤榮一園長は、「娘の夢をか
なえてあげてくれ。」と一言。

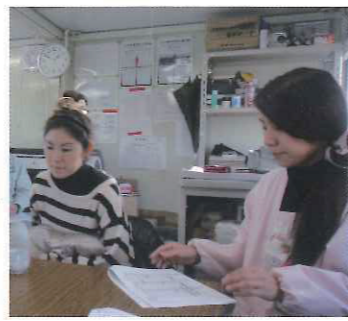
設計は難航を極め、いくつもの
模型が廃案となった。みんなの広
場、バスを待たせたり、親が送り迎
えるエントランスホールが重要な
テーマとなる。

娘さんらは、シリンドー状のホ
ールの壁には、いわむらかずおさ
んの絵本で育ったので、ぜひ頼ん
で欲しいとのことだった。いわむ
らさんはすぐに現場に現れた。

いわむらさんは若いころ、練馬
に住んでいて、その頃の森とそこ
に住んでいた動物たちを思い出し
て、描いていただいた。

計画・建設中に2人の娘さんは
結婚し子供も生まれ、いわむらさ
んの絵がある園舎で子育てをして
いる。

最後に木(幼稚園)から旅立つ
姿が送られてきた時、建物に目が
入ったと思った。



左:(旧姓)加藤桂子先生 右:(旧姓)加藤優子先生

PICOナーサリー久我山



左:野上秀子先生、右:野上宏先生

周辺を展望する茶室

久我山幼稚園の野上澄江園長先
生が他界された後、秀子先生の夫、
宏先生が会社を引退し、保育の現
場に参加してきた。

時勢は認定こども園化であつた
が、認定こども園の基準が定まら
ないので、社会福祉法人を新設し、

故澄江先生の自宅跡地に認定保育
園をつくった。社会福祉法人を認
可する権限はその年に東京都から
各自治体に委譲され、杉並区の第
1号の認可となった。

通常ならば、新設が認可される
ことはごくまれである。

しかし、杉並区では、待機児問
題が深刻であるので、自分で土地
を提供してまで福祉施設を開設し
たいとする人々には、新設の法
人を認可するという方針である。

小さな容積の建物に、建築基準
法の適用を受け、大きな階段が内
と外にできる。それらを立体的な
生活空間や自然光を取り入れる装
置として扱った。

2階から2方向の風景が開けて
おり、また吹き抜けているので狭
さを感じない空間である。



記念館と呼ぶように、ステンドグラスがモチーフになっている ©永石秀彦



右:立体的な園庭
左上:周辺を展望する窓
左下:光をとり入れる階
段室
©永石秀彦(3点とも)



至誠いしだ保育園

徹底的に地域主義保育園

同法人が運営する万願寺保育園から100メートル程度しか離れていない敷地に新設の大きな保育園をつくった。このエリアは日野市で待機児が多い。

敷地は多摩川に近く、四方道路で、向かいに児童公園もある。当初、敷地内に児童擁護施設も計画していたが、最終的に保育園のみが建てられた。その結果、園庭は広く、5方ネットで囲われた本格的なフットサルコートと小さなクラブハウスもつくられた。



左：高橋敏先生 右：高橋智宏先生

コートとクラブハウスは休日には地域に開放され、法人も運動会などに使うこともある。

同法人の至誠第二保育園と万願寺保育園には、それぞれ、「にこにこ広場」、「こどもの家」と名付けられた地域と交流できる建物を併設し、各種イベントを通じて、地域の活動の核となっている。

同法人は日野市に5つの保育園を運営しており、頻りに園長先生同士が会議を持ち、地域の保育のことを話し合っており、私たちもそこに参加させていただいている。同グループの至誠学舎がその後近くに、児童擁護施設を建てる際、東京都では地域の反対で、建てられなかったが、ここでは地域の方達は誰も反対しなかった。

ある主婦は、「施設の子供が家に来たときに金品を盗まれたことがあります。社会が悪いのです。早く建ててください」と説明会で述べた。地域で「福祉」をやっていくということは、このようなことなのだ」と知らされた。

だ」と知らされた。



万願寺保育園のにこにこホール

キッチンが見えるランチルーム



2階には多機能な子育てホールがある ©永石秀彦



北側の階段室：採光と換気を担っている ©永石秀彦



©永石秀彦

明愛保育園

子育ての劇場

かつて幼稚園は国や自治体から運営費が支給されていなかった。当時、少ない保育料でこどもの教育環境をつくり、保育をおこなうことは困難を極め、この明愛幼稚園の創設者は、東京都の幼稚園に呼びかけて、大きな運動を起し、現在のように国から運営費を支給する制度が整備された。

そして一昨年2013年2月に杉並区では、認可保育園に入れなかった子の母親が20人で一斉に抗議（デモ）行動を起こすまでに至り、「待機児問題」は一気に少子化問題、女性の社会進出問題へと連携して論じられるようになる。

そういった中、国が「認定こども園」の基準を決めかねていることから久我山幼稚園に続いて、社会福祉法人を新たに設立し、本格的に認可保育園をつくることにした。幼稚園の田中園長先生は音大出身、その妹は、美大出身、息子さんは学習院で現代能をやっていた演劇家であり、もうひとりの息子さんは現代プラスバンドでサックスを吹く。限りなく文化的な家族

で、演劇家の舞台装置の計画と製作を私たちが手伝ったこともある。

芸術家たちは、人に喜んでもらうことを自分の喜びにできる方たちなので、「福祉」の心に最も近い方たちなのかも知れないと思う。

この建物の外部空間は、シェアスペースが生まれ育った演劇の聖地である、ストラストフォード、アボン・エイヴォンのシェアスペース劇場の前のカフェのテラスをイメージしている。演劇の合間に、食事をしながら、観たばかりの演劇の余韻を楽しみ、そして次の演劇の期待感を膨らませる空間である。

隣接する母体の明愛保育園には私たちがかつて設計したPLAY WALL（東京建築マップ2掲載）がある。最近のこどもの施設は、たびたび起こる事件によって、閉鎖化しこどもの気配が路上から消えてしまった感があるが、元気なこどもの声や姿を路上にあふれさせることによって、まちは健全さと元気を取りもどすようになると願った。



創設者の婦人山本澄先生



左から田中裕太郎先生、山本秀行事務長、田中悦子理事長、設計スタッフの山崎智貴氏



1階の作業室、2階のテラス、そして地階のドライエリア、階段が立体的に街路に露出する ©永石秀彦



隣の幼稚園の園庭側から ©永石秀彦



サウスイース側の幼稚園の園庭に接する ©永石秀彦



左隣りが明愛幼稚園 ©永石秀彦



茶室から続く空中石庭：彫刻は文部科学大臣賞を受賞している前田耕成さんの作 ©永石秀彦（左右とも）



海賊カフェから続くテラス ©永石秀彦



60周年記念ホール：国ゆかりの音楽家などによるコンサートもおこなわれる ©永石秀彦

日野わかば保育園

地域で守り抜いた子育ての森
宇野宏武先生夫婦は、若い頃、公共の保育園が5時で閉まって、こどもが路上に待たされているのを見て保育園を開園すると決めたのだそうだ。この地にはかつて、自治会を中心としたマンション建設の反対運動があった。長年の闘いの末、周辺の緑と敷地は守られ、最終的に法人で買い取り、保育園棟が2棟建てられた。互いの距離は250メートルも離れており、その間に都の公園がある素晴らしい環境である。建物は周辺に開かれ、地域が守り抜いた風景と光と風が空間に入ってくる。



地域が守り抜いた森



かつてここには大きなマンションの計画があった ©永石秀彦

「こどもの文化を未来につなぐ」
幼稚園は野上家に嫁いだ澄江先生による設立、現園長は同様にお嫁さんの秀子先生、そしてこの建物の計画中に、美樹先生が嫁いできた。3人は互いに血のつながりがない。澄江先生と秀子先生は茶道に長けていて、澄江先生はこれまでいくつも茶室をつくってきた。2人とも忙しいのに、卒園生や興味があるオペラ、音楽などの公演があると飛んで行き、お客様がくるとお茶をたててもてます。共感する童話作家は応援し、原画展を開催し、彫刻家や絵画もこよなく愛し、宮沢賢治が描いた原画まで所有している。
とりわけ、魯山人を見いだし育てたと言われる人物の姪にあたる細野恵美子さんが40年以上、ここ



左から美樹先生、秀子先生、故澄江先生

久我山幼稚園 60周年記念館

ある文豪が幼稚園を訪れた際、「まるでこどもの文化会館のようだった」と表したことから、この建物には、「こどもの文化を未来につなぐ」という言葉を生前に、澄江先生が建物に添えた。
私たちが人の紹介で久我山幼稚園と会った時は、幼稚園の建て替えたので、どのように計画しても、現在よりもよくなるので、現状の建物を構造補強して改修し、あまった資金でやりたいことを実現した方がよいのではないかと提案し、実際に、既存園舎を構造補強し、記念館を建てることとなった。
既存の園舎には、世界中から集められた民芸品が詰まった「海賊の部屋」や本格的な茶室があったので、こどもたちがここで日本の文化と世界の文化を体験し船出する、という意味を込めて、舟の要素が随所に使われることとなった。
敷地には、街路側と園庭側とで、2層分の段差があり、側面は神社に接しており、それぞれのファサ



船をイメージしたコックピット：事務室 ©永石秀彦



茶人、細野恵美子先生

ードで接している。
相手は茶人である。まるで茶室をつくるかのごとく、部材のひとつひとつ、床の間や客人の向かえ方など含めて、検討され、描かれた手描きのパースは200面を超えた。
施工は同法人が運営する西鎌倉幼稚園の設計施工をおこなった佐藤秀があたり、故服部正社長に、「わたしの人生でこれほど厳しい施工はありませんでした」と言わしめた。

作品概要 写真/特記なきものは渡辺治建築都市設計事務所提供

東京ゆりかご幼稚園
所在地:東京都八王子市
建築主:学校法人東京内野学園
理事長 内野 彰裕
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、加茂下善人、本田 京、山崎智貴、沖水理恵
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史、斎藤 美幸
設備:三高設計/三島行雄
施工:砂川建設/岡野弘幸
敷地面積:21,301.01㎡
延床面積:1,855.65㎡
構造・規模:木造 地上2階
竣工:2014年1月

代々木至誠こども園
所在地:東京都渋谷区
建築主:社会福祉法人至誠学園 立川 高橋利一
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、川合麻美 サイン/野仲弘一
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史、斎藤 美幸
メタストラクチャ原田 玄
設備:三高設計/三島行雄
美術:坂本紀恵
施工:栗本建設工業/奥田和浩
敷地面積:1,349.31㎡
延床面積:1,853.57㎡
構造・規模:S造 地上3階
竣工:2013年3月

秩父保育園
所在地:埼玉県秩父市
建築主:学校法人弘道学園 柴原幸保
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、加茂下善人
設備:三高設計/三島行雄
構造:中設計/中雅雄
施工:高橋組/富田典孝
敷地面積:1,537.10㎡
延床面積:1,263.36㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2011年3月

八王子白百合幼稚園 南棟
所在地:東京都八王子市
建築主:社学校法人白峰学園 草場 秀親
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、川合麻美
構造:リズムデザイン/中田 琢史
設備:三高設計/三島行雄
施工:三意建設/家子明男
敷地面積:2,886.98㎡
延床面積:597.367㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2011年1月

大泉小鳩幼稚園
所在地:東京都練馬区
建築主:大泉小鳩幼稚園 天岡 桂子
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、前 亜里沙、大澤 裕美
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史、斎藤 美幸
メタストラクチャ原田 玄
設備:三高設計/三島行雄
美術:いむむらかずお
施工:古部建設/永野勝美
敷地面積:4,646.00㎡
延床面積:2,456.85㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2014年1月

Picoナーサリー久我山
所在地:東京都杉並区
建築主:社会福祉法人風の森 野上 宏
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、川合麻美、加茂下善人、柳文相
構造:中設計/中雅雄
設備:三高設計/三島行雄
美術:HATTA DESIGN OFFICE
施工:砂川建設/菅原和正
敷地面積:185.03㎡
延床面積:182.00㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2014年5月

至誠いしだ保育園
所在地:東京都日野市
建築主:社会福祉法人至誠学園 立川 高橋利一
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、川合麻美 サイン/野仲弘一
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史
設備:三高設計/三島行雄
美術:坂本紀恵
施工:清水組/落合 純
敷地面積:2,225.29㎡
延床面積:1,412.82㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2012年3月

明愛保育園
所在地:東京都杉並区
建築主:社会福祉法人明愛会 理事長 田中悦子
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、山崎智貴、沖水理恵、柳文相 サイン/野仲弘一
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史、斎藤 美幸
設備:三高設計/三島行雄
美術:坂本紀恵
施工:ニッケン建設/吉田彰
敷地面積:403.98㎡
延床面積:564.42㎡
構造・規模:木軸組造、地階RC造
竣工:2014年12月

久我山幼稚園60周年記念館
所在地:東京都杉並区
建築主:学校法人野上学園 野上 宏
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、丘 広大
構造:リズムデザイン/中田 琢史
設備:三高設計/三島行雄
美術:アートフロントティア HATTA DESIGN OFFICE
施工:佐藤秀/津金晴樹
敷地面積:672.02㎡
延床面積:809.83㎡
構造・規模:RC一部S造 地下1階 地上3階
竣工:2010年3月

日野わかば保育園
所在地:東京都日野市
建築主:社会福祉法人わかば福祉会 宇野有斐子
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、山崎智貴、森下志子
構造:江尻建築構造設計事務所/江尻 憲泰
設備:三高設計/三島行雄
施工:砂川建設/梶 正樹
敷地面積:1,256.44㎡ 別棟新築/973.46㎡
延床面積:新園舎/919.12㎡ 別棟新築/528.63㎡
構造・規模:S造 一部RC造
新園舎/地下1階+地上2階
別棟新築/地上2階
竣工:新園舎/2012年7月
別棟新築/2013年3月

日新幼稚園
所在地:東京都大田区
建築主:学校法人日新学園 永井雅之
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、川合麻美
構造:リズムデザイン/中田 琢史
設備:三高設計/三島行雄
施工:日榮住宅建設/北村利光
敷地面積:714.89㎡
延床面積:153.68㎡
構造・規模:S造 地上2階
竣工:2012年2月

大塚保育園
所在地:東京都八王子市
建築主:社会福祉法人のぞみの会 理事長 石坂 孝喜
設計・監理:渡辺設計/渡辺 治、斎藤 里、沖水理恵
構造:リズムデザイン=モヴ/中田 琢史、斎藤 美幸、金山美登利
設備:三高設計/三島行雄
美術:坂本紀恵
施工:砂川建設/細岡 勲、菅原和正、奥山直樹
敷地面積:3,074.77㎡
延床面積:1,328.50㎡
構造・規模:木造 地上2階
竣工:2015年3月予定

この構造形式を使うことによって、学校建築を安価に合理的に建てることできる。
木造は仮に寸法を間違っても、現場でノコによる修正ができた、スリーブも簡単な道具で開けることができるので、他の構造体と比べてメリットが多い。15年前に日本中の集材材の加工工場を見学したときには、この規模のプレカットは不可能であった。この建物では、20倍壁耐力を確保する箇所があり、鉄骨造の技術の応用を必要とした。



元SDG所員だった中田氏



同様の構造形式は鉄骨造、コンクリート造でもつくられ、それぞれの躯体の合理性が検証された



大塚保育園

流通部材による大規模木造

住宅用に流通しており、プレカット可能な範囲での大規模木造の模索である。鉄骨造のいしだ保育園と同様に、周辺部のみ水平力を負担する壁柱を放射状に設けることによって、4方の壁がすべて窓にできる構造体を実現させる。一部、キートック製のLVL梁を使い、梁せいを小さくしている。



空と緑を借景とする窓 ©永石秀彦



階段室から自然光が入る ©永石秀彦



©永石秀彦

日新幼稚園

自分をアピールできることも東京都大田区の住宅地にある小さな幼稚園である。この幼稚園とも15年以上の付き合いがある。2つある棟をそれぞれ、改修と構造歩行をおこなってきた。この棟は、構造補強をおこないながら、階段などを基準法に合致するように修正した。
建築基準法によって、どんなに小さな園舎でも幅1400の確保を余儀なくされる。この棟では、階段室を使って部屋の主たる採光を確保するのに使ったともに、父兄の参観のスペースにもなる。
永井園長先生は、子どもとよく遊ぶ。子どもはとても活発で表情



が明るく、自分をアピールするのり巻を食べることも写真コンクールで優勝するほどである。